

作者： Administrator

2017年 8月 02日(水曜日) 08:48 - 最終更新 2017年 8月 02日(水曜日) 08:51

(この記事は室蘭民報の許可を得て掲載しております)

アイヌ文化など紹介するミニパネル巡回展【登別、白老】

室蘭民報 - 2017/07/20 11:35



オオウバユリの特徴などをパネルで紹介している巡回展

アイヌ文化や身近な動植物、自然環境などを紹介する、アイヌ民族博物館(白老町)のミニパネル巡回展が、登別市若山町のキウシト湿原ビジターセンターなどで開かれている。今回は同湿原にも群生するオオウバユリにスポットを当てた内容。登別在住者が風景画や解説用イラストを手掛けるなど地域と連携した展示となっている。

アイヌ民族が自然の恵みを活用してきたことから、巡回展では一つの種にスポットを当てて、アイヌ語名や特徴、利用方法などを紹介。今回は同センターの保全区にも群生しているオオウバユリを取り上げている。

パネルでは、オオウバユリのアイヌ語名・トゥレブが鱗茎(りんけい)を指す呼称で「溶け・させる・もの」との意味があることや、オオウバユリの採集方法や道具、鱗茎の処理とでんぶんの加工、種子から成熟するまでを紹介している。トゥレブやブクサ(ギョウジャニンニク)を用いた保存食、登別付近の植物地名なども加えた。

パネル展は開催に向けて地域住民らと連携しているのが特色。市内在住の会社員・**安本喜英**さんは植物のある風景画を展示。パネルの解説用イラストは、日本工学院北海道専門学校の学生・辻愛美さんが手掛けた。

同博物館の学芸員・堀江純子さんは「動植物のアイヌ語の名前など、さまざまな角度からアイヌ文化を知ってもらいたい」と話している。展示は年内いっぱい予定。

同ビジターセンターのほか、同博物館など白老町内4カ所でも開催している。

……協力した絵  で囲っています。 下記にメインの絵を添付します。



作者： Administrator

2017年 8月 02日(水曜日) 08:48 - 最終更新 2017年 8月 02日(水曜日) 08:51
